

6月12日(金曜日)「神はわがやぐら」

【新改訳 2017】

詩篇 46・1－11

「神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。……万軍の主はわれらとともにおられる。……」(1－7節)

「神はわがやぐら、わがつよき盾、苦しめるときの近きたすけぞ……」で始まる有名な賛美歌(讚美歌 267 番)は、この詩篇に基づいて作られました。ドイツの宗教革命者マルチン・ルターの作詞作曲による、力強い信仰告白の歌の1つです。ぜひ愛唱してください。

当時の教会は、残念ながら聖書そのものの教えよりも、歴史の中で入ってきた人間の考えからの言動が多く、非聖書的、非福音的な状態に陥っていました。ルターは個人的には神の義について苦悩し、教会では免罪符に代表されるような非聖書的言動との戦いがあり、いろいろな迫害や危険にさらされました。そのような中で、彼は、ただ神とみことばにのみ信頼して大業を成し遂げたのです。「神のことばの再発見」という成果をもたらしました。

～祈り～

主よ。あなたは、私の避け所、また、いつも共にいてくださる助けです。
どんな時でも、そのことを忘れることがないようにお守りください。

【学びのために】

マルチン・ルター(1483-1546 年)はドイツの宗教革命者。カトリック教会の修道士でしたが、免罪符など当時の教会の非聖書
的状況に対して、聖書に従って改善を主張し、結果的に、プロ
テスタント教会の開設者の1人となりました。